

大学ポートレート運営会議（第11回）議事要旨

1. 日 時 令和元年9月24日（火） 15:00～17:00

場 所 学術総合センター11階 1112会議室

2. 出席者

[委員] 石井委員、郭委員、杉山委員、鈴木委員、長谷川委員、水戸委員、谷地委員、
中田公立大学協会事務局長（奥野委員代理）、小松日本私立短期大学協会事務
局長（坂根委員代理）、松ヶ迫短期大学基準協会事務局長（原田委員代理）
[オブザーバー] 竹中高等教育局高等教育企画課高等教育政策室室長補佐（文部科学省）
[事務局] 土屋大学ポートレートセンター長、井田大学ポートレートセンター教授、
佐藤評価事業部長、三田大学ポートレートセンター事務室長
（以上、大学改革支援・学位授与機構）、
小瀬私学経営情報センター長（日本私立学校振興・共済事業団）

2. 議 題

- (1) 大学ポートレート公表項目の新規追加について
- (2) 大学ポートレートステークホルダー・ボードの開催について
- (3) 大学ポートレートにおける機能拡充・改修について
- (4) 大学ポートレート関連データによる情報活用支援の取組について
- (5) その他

3. 配付資料

- 資料1 大学ポートレート運営会議（第10回）議事要旨（案）
資料2 大学ポートレート運営会議委員名簿
資料3 大学ポートレート公表項目の新規追加について（案）
資料4 大学ポートレートステークホルダー・ボード委員名簿
資料5 令和元年度大学ポートレートステークホルダー・ボードヒアリング有識者（案）

- 資料6 ステークホルダー・ボードに意見等を伺う項目（案）
- 資料7 大学ポートレートにおける機能拡充・改修について
- 資料8 大学ポートレート関連データによる国公立大学等の情報活用支援の取組
- 資料9 令和元年度大学ポートレート参加状況
- 資料10 大学ポートレート公表画面へのアクセス数について

まず、委員の交代に伴い、新委員として郭洋春委員の紹介があった。その後、大学ポートレート運営会議（第10回）の議事要旨の確認ののち、議題について協議が行われた。主な協議内容は、次のとおり。

（1）大学ポートレート公表項目の新規追加について

- ・三田事務室長より、資料3に基づき大学ポートレート公表項目の新規追加について説明があり、原案のとおり決定された。

（2）大学ポートレートステークホルダー・ボードの開催について

- ・三田事務室長より、資料4～資料6に基づき大学ポートレートステークホルダー・ボードの開催について説明があり、原案のとおり決定された。

（3）大学ポートレートにおける機能拡充・改修について

- ・三田事務室長より、資料7に基づき大学ポートレートにおける機能拡充・改修について説明があった後、金原事務室長補佐より、リニューアルした大学ポートレートのウェブサイトについてデモンストレーションが行われ、以下のとおり意見交換が行われた。

<主な意見>

【小松事務局長】リニューアルによって大変見やすくなったが、改修等に係る開発経費について、私学版ポートレートを運営している日本私立学校振興・共済事業団（以下、「事業団」という。）には経常的な補助金が出ていないと記憶している。

【三田事務室長】国公立版は会費をいただくことにより運営している。

【谷地委員】私学版ポートレートについては会費をいただけていないため、事業団で行っている貸付事業の収益の範囲内で運営している。国公立版に比べ私学版ポートレートは開発に遅れが出ているが、開発費の捻出が厳しい状況にあるという背景によるものである。

【水戸委員】 認証評価における大学ポートレートの活用について、国公立版は共通基礎データ様式を提供することだが、大学基準協会の受審機関には国公立大学と私立大学が混在している。共通基礎データ様式を私学版ポートレートでも用意できれば、そのまま利用できるのではないか。

【三田事務室長】 共通基礎データ様式は大学基準協会や日本高等教育評価機構も含めて認証評価機関共通の様式である。

【水戸委員】 私学版ポートレートについては、予算の関係で準備ができていないということか。

【谷地委員】 ご指摘のとおり。財源の問題で遅れがちになっている。

【水戸委員】 評価疲れということが言われているので、大学の負担軽減を考えるのであればなるべく早く国公立との並びを取っていただきたい。個人的には、学校教育法で定められた評価であることを考えれば、国公私の区別が生じるのは疑問であり、こういった取組にもっと国の補助金が入ってもよいと思う。

(4) 大学ポートレート関連データによる情報活用支援の取組について

- ・ 三田事務室長より、資料8に基づき大学ポートレート関連データによる情報活用支援の取組について説明があった後、金原事務室長補佐より、大学基本情報の分析環境についてデモンストレーションが行われ、以下のとおり意見交換が行われた。

<主な意見>

【中田事務局長】 これまでは学校基本調査の個別の個票を用いた分析までできなかったため非常に画期的と考える。小規模大学の多い公立大学では各々でシステムを導入することは難しいため、そういった意味でも有意義だと思っている。認証評価等でも共通で比較できるということで期待している。費用負担の問題もあり参加していない公立大学もあるので、こういった機能をアピールすることで理解を得られるのではないかと思う。

【三田事務室長】 現時点では大学基本情報のデータのみを利用する予定だが、今後、国立大学法人評価や公立大学実態調査等のデータの利用も検討している。

【水戸委員】 国公立大学と私立大学には情報公開格差があり、私立大学の場合、横並びの比較への抵抗感もあると思うが、基本的には予算の格差によるものと認識している。国立大学には交付金がある一方、私立大学は谷地委員から発言があったように予算が限られている。大学基本情報による分析ツールを私立大学にも導入してほしいが、財源の問題があ

る。私立学校法の改正でも情報公開の必要性が大きく謳われているが、情報公開を求めるのであれば国公立大学で格差が出ないように予算が充てられるとよいと思う。

(5) その他

- ・ 三田事務室長より、資料9、資料10に基づいて、大学ポータル参加状況及びアクセス数等について報告があった。また、令和元年度大学ポータルステークホルダー・ボードを令和元年12月10日に実施する旨、次回運営会議を令和2年1月～3月をめぐりに開催予定である旨について、報告があった。

以上